

第2回 浜田港港湾脱炭素化推進協議会 開催概要

浜田港における港湾脱炭素化推進計画の策定に向け、第2回 浜田港港湾脱炭素化推進協議会を下記のとおり開催しました。

今回の協議会では、港湾脱炭素化推進計画の策定に向けた計画素案の審議を行いました。

1. 日 時：令和6年12月23日（月） 13：30～15：00
2. 場 所：島根県浜田合同庁舎 大会議室
3. 構 成 員：別紙1「浜田港港湾脱炭素化推進協議会 構成員」参照
4. 議 事：別紙2「議事次第」参照
5. 議事概要
 - ・ 前回（第1回）協議会時に未回答となっていた意見等について、回答した。
 - ・ 事務局が作成した港湾脱炭素化推進計画（素案）に盛り込んだ1）基本的な方針、2）計画の目標、3）港湾脱炭素化促進事業・実施主体、4）計画の達成状況の評価に関する事項、5）計画期間、6）その他港湾管理者が必要と認める事項について、事務局から説明後、協議会構成員やオブザーバーから意見を伺い、審議した。
 - ※2）、3）、6）は今回の協議会にて新たに提示。
 - 1）、4）、5）は前回（第1回）の協議会にて提示済。
 - ・ 計画素案の修正に関する意見はなく、提案した事務局案にて承認された。
6. 主な意見
 - （荷役機械の電動化）
 - ・ 既に一部の機械では導入しているものの、技術開発が進んでいないのが現状である。技術開発が進み、低・脱炭素型の荷役機械が普及すれば導入が進むと思われる。導入に際しては補助金制度が充実していることが望ましい。
 - （バイオマス発電）
 - ・ 林業分野の人材不足により、燃料となる県産材が不足している。海外から輸入しているPKSの単価高騰と為替レートの影響によって、事業の採算性を確保するのが難しい。
 - ・ 自社でのバイオマス発電を計画している。
 - ・ バイオマスを含めた代替燃料の検討を進めている。
 - （モーダルシフト）
 - ・ 背後圏域の企業から、2024年問題の対策で最寄りの浜田港を利用したいという声は上がっており、長距離のトラック輸送から浜田港の利用に転換してもらうことでCO2削減につながる。
 - ・ トラック輸送からのモーダルシフトを進めている。
 - （計画の見直し）
 - ・ 企業誘致によりターミナル外の立地企業が増えれば、将来的な浜田港におけるCO2排出量が増えてしまうが、その場合どう反映されるか。
 - ・ 新規立地企業もカーボンニュートラルを求められる。
 - ・ 新たな企業が進出した場合は、それに応じた計画の見直しを行う。
 - ・ 本協議会で提示した推進計画の内容で取組みを進めていきながら、計画策定後も内容の見直しは継続的に実施していただきたい。

